

..... 編集後記

◆ 今月号は、個人投稿して頂いた原稿をもとに編集しました。火山に関する報告が2件、津波被害が1件、砂漠の砂が1件、それにシリーズもの2件です。

◆ 須藤 茂さんは、米国北西部に位置するセントヘレンズ火山とフッド火山の見学記を、巡検案内書として書いています。セントヘレンズ火山は、1980年5月の噴火で火砕流や泥流を発生させ多くの被害をもたらしました。ここでは火山防災の観点に立って、米国地質調査所がどんな火山観測を実施してきたかを年月を追って詳細に紹介しています。表紙と口絵も併せてご覧下さい。

◆ 浦井 稔さんは、インドネシア・メラピ火山の2006年噴火を衛星画像解析と現地調査の結果から報告しています。夜中に登山したメラピ火山の様子が生き生きと描かれています。また、地上観測施設の設置が困難である発展途上国では、地球観測衛星による火山観測は極めて有効であると指摘しています。口絵も併せてご覧下さい。

◆ 七山 太さん・斎藤文紀さんほかは、2006年7月17日に発生したジャワ島南西沖地震津波の被害状況を、第四紀学と堆積学の専門家として調査しました。この地震津波では660名以上が亡くなっています。被害を受けた3地域で現地調査を行い、復興とともに消え去ってしまう津波堆積物などを的確に報告しています。また、インドネシア地質調査センターとの研究協力の可能性も検討しています。口絵も併せてご覧下さい。

◆ 斎藤 隆さんは、世界の代表的な砂漠から採集した砂漠砂22標本を実体顕微鏡で写真撮影し、各砂漠

の砂の特徴を記載しています。多くは酸化鉄に被覆された石英ですが、砂漠毎に不純物として混入している岩石片などに差異があるようです。口絵にも代表的な写真が掲載されていますので、併せてご覧下さい。

◆ 高橋裕平さんは、シリーズ「地質分野2006年冬の話題-英文ニュース誌から拾う-」として、地震断層のパイプラインへの影響、森林火災による水銀放出、モナザイト鉱物年代の解釈、鉄同位体による太古の生物地球化学、オーストラリアクラトンの地質鉱物資源、タービダイトによる海草の枯死、シベリアクラトンを紹介しています。

◆ 小松原 琢さんはシリーズ地質調査のパートナー(8)として、傾斜面用安全帯とロープ「急崖調査のパートナー」を紹介しています。今回の用具はかなり上級者向きです。使用に当たってはくれぐれもご注意ください。

◆ 地球科学は主に地下資源開発を中心に発展してきましたが、現在ではそのノウハウが地震・火山防災や地下環境保全などの研究に活かされています。また、地球科学の研究対象である岩石、鉱物、化石、地層、地形などは、人間の知的好奇心を掻き立てる対象物であり続けています。このようなことを考えると、今、声高に言われているイノベーションでは、従来の技術開発で得られたノウハウや人間の好奇心を、今後の社会にどのように活かしていくのか考え直す良い機会かと思われまます。その際、過去の科学技術がもたらした負の遺産も十分考慮する必要があります。(玉生志郎)

地質ニュース編集委員会

委員長：玉生志郎

副委員長：吉田朋弘

委員：藤原 治・光畑裕司・高木哲一・

七山 太・酒井 彰・高橋裕平

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754 Fax. 029-861-3746

E-mail: g-news@m.aist.go.jp

地質ニュース	第636号	2007年	8月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 千実費		
	2007年8月1日 発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951 Fax. (03) 3265-0952		
	http://www.jitsugyo-koho.co.jp		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		



表紙右下のロゴについて：地質調査総合センターは、国際惑星地球年 (IYPE) に賛同し、活動を支援しています。

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

●地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

©2007 Geological Survey of Japan